

## 第 68回 日本唾液腺学会総会・学術集会報告

会長：浦野 誠（藤田医科大学ばんだね病院・病理診断科）

副会長：大上 研二（東海大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

2024年12月7日(土)、第 68回日本唾液腺学会総会・学術集会を国際ファッションセンタービル（東京都墨田区）にて開催いたしました。本年度の学術集会は好天にも恵まれ、95名と数多くの方にご参加をいただき、盛会裏に終えることができました。唾液・唾液腺に関連する医歯薬系様々な分野の基礎・臨床・病理など多職種の参加者により基礎および臨床研究、腫瘍の病理診断や治療成績について活発な発表、討論と相互交流がなされました。

今回、特別講演としては昭和大学歯学部口腔病理学的美島 健二先生に「唾液腺の再生医療・オルガノイド研究」についてお話しいただきました。オルガノイドは解剖学的、機能的に生体内器官に近い特徴を有しており、現在、諸臓器の発生、解剖、生理などの基礎領域に留まらず、疾患の病態解明や薬物動態などの創薬研究、再生医療への応用が期待されています。ご講演は唾液腺の恒常性維持とオルガノイドの製作過程、再生医療としてのシェーグレン症候群に対するオルガノイドを用いた治療戦略、COVID-19感染との関連など、非常に示唆に富み将来展望につながる内容で会員に資するところ大でありました。

またシンポジウムでは「唾液腺腫瘍－診断・治療の最前線－」のテーマのもとに、岐阜大放射線医学の加藤 博基先生には専門性の高い唾液腺腫瘍の質的画像診断について、京都大耳鼻咽喉科頭頸部外科の児嶋 剛先生に術前診断としての穿刺吸引細胞診における振動デバイス開発と実施成績について、名古屋大病態構造解析学の中黒 匡人先生には形態学と遺伝子異常に基づいた病理診断の在り方について、また国立がん研究センター中央病院頭頸部食道内科の本間 義崇先生に唾液腺がんの内科的治療として日本が牽引する薬物療法開発の現状について、そして関西医大耳鼻咽喉科頭頸部外科の鈴木 健介先生には神経温存を重要視した外科的治療のノウハウについて、それぞれの領域の最新知見をお話しいただきました。各々短いご講演時間でしたが唾液腺腫瘍についての幅広い知識の整理ができ、集学的な診断、治療の重要性を再認識しました。



企業共催ランチョンセミナーでは神奈川歯科大学短期大学部歯科衛生学科の山本 裕子先生から「腸－唾液腺相関による口腔粘膜免疫向上メカニズム」の演題名で、プロバイオティクス、プレバイオティクスによる「腸活」と唾液中のIgAの関係についての興味深いお話しがありました。

また今回、一般演題は「基礎的研究」12題、「臨床的研究および病理診断学的研究」12

題、「症例検討」8題の計32題と過去最高数の申し込みをいただきました。その中から学会奨励賞（45歳以下）として、「基礎的研究」部門：山口 晴香先生（日本歯科大学新潟生命歯学部生化学講座）「EGFR陽性唾がんに対するタンパク模倣体を用いた近赤外光免疫療法」と「臨床的研究および病理診断学的研究」部門：内海 由貴先生（東京医科大学人体病理学分野）「唾液腺導管癌におけるp53免疫組織化学染色の細胞質陽性パターンはTP53遺伝子変異を反映した予後不良因子となりえる：大規模多施設共同研究」が選ばれ、受賞講演が行われました。その他のいずれの発表も非常に興味深い内容で、2つの会場において活発な討議が行われました。



総会では、花澤豊行先生の新監事就任が承認されました。また、岡本 美孝先生、岩井 大先生、矢ノ下 良平先生が名誉会員となることが承認されました。

最後になりましたが、今回歴史ある日本唾液腺学会の学術集会開催の栄誉をいただきましたことに深く感謝し、今後益々の本学会の発展を祈念いたします。

次回、第69回学術集会は大上研二会長（東海大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授）の下、2025年12月13日（土）に同じく国際ファッションセンタービルで開催されます。多くの皆様のご参加、ご発表をどうかよろしくお願い申し上げます。

